

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3473300741		
法人名	医療法人 北原会		
事業所名	グループホーム大野		
所在地 (電話番号)	広島県廿日市市大野67番地1 (電話) 0829-56-3333		
評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成19年12月27日	評価確定日	平成20年2月15日

【情報提供票より】(平成19年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	18 人	
職員数	22 人	常勤 13人, 非常勤 9人, 常勤換算 19人	

(2) 建物概要

建物形態	<input type="radio"/> 併設/単独	<input type="radio"/> 新築/改築
建物構造	鉄骨造 地上2階建1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	- 円	
敷金	有(円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	1日あたり1,000円			

(4) 利用者の概要(12月5日現在)

利用者人数	18 人	男性	3 人	女性	15 人
要介護1	0 人	要介護2	9 人		
要介護3	9 人	要介護4	0 人		
要介護5	0 人	要支援2	0 人		
年齢	平均 86 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	敬愛病院, 二神歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然環境に恵まれた丘陵地にある、グループホーム大野は、経営母体である敬愛病院に隣接しており、敬愛病院がこれまで培ってきた看護や介護のノウハウを活かした支援と綿密な医療との連携により利用者・家族の安心感が得られるよう取り組まれています。また、電話や手紙を利用した細やかな報告が行われている他、訪問時には家族にゆったりとくつろいでもらいながら利用者の暮らしぶりについて報告し、ホームでの暮らしや雰囲気を感じてもらえるよう取り組まれています。利用者が安らぎと喜びのある生活を送れるよう、常に利用者の気持ちに寄り添いながら、家庭的でのんびりとした雰囲気づくりに取り組まれており、一人ひとりのこれまでの習慣やその人なりのペースが、暮らしに反映できるように配慮されています。日々の暮らしの中で、利用者の得意なことや個性が発揮できるような役割づくり、場面づくりを行うとともに、利用者それぞれのやりたいことやできることに合わせた楽しみごとや気晴らしの支援が行われており、家事や余暇活動、趣味活動など、生活の場面一つひとつからその人らしさを大切にした支援が行われていることを感じました。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、地域との交流が課題となっていました。散歩や買い物などの機会に、あいさつや声かけを積極的に行う心がけられており、地域の人と顔なじみの関係になり、交流が深められるよう取り組まれました。地域との交流については、継続して取り組むことで、関係が深まっていくとともに、地域の人のホームに対する理解も深まりますので、今後の取り組みに期待します。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を理解したうえで、職員全員で自己評価に取り組まれています。また、外部評価受審後に結果を職員間で共有し、意識統一を図ったうえで、具体的な目標を定めるなど、評価を前向きに捉えサービスの質向上につなげられています。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議が2か月に1回開催されており、ホームの運営やサービスの状況について報告するとともに、積極的な意見交換が行われています。また、課題等については、さまざまな立場から意見をもらいながら、それらがサービスの改善や向上に活かせるよう取り組まれています。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>訪問時に、家族の意見や思いが汲みとれるような雰囲気づくり、声かけの工夫が行われている他、目安箱を設置し、直接ホームに言いづらい意見や思いの把握に努められています。また、意見をもとにカンファレンスを開催し、サービスの改善に向けて具体的な検討を行うなど、意見を前向きに捉え、サービスの質向上に活かされています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>敬老会、クリスマス会等のホーム行事に地域のボランティアグループを招くなど、地域の人との交流の機会づくりに取り組まれています。ホームが住宅や学校等から離れた場所に立地しており、困難な面もありますが、利用者が地域行事に参加するなど、地域の人と関わる機会を増やし、利用者が地域で暮らし続けるための基盤づくりをすすめるとともに、公民館を利用して、認知症ケアについての市民向けの講座を開くなど、ホームの機能を地域に還元しながら、地域の理解や協力が得られるような取り組みを始められることを期待します。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の安らぎと喜びのある生活を支援するため、ホーム独自の理念が掲げられており、常に利用者の気持ちに寄り添いながら、家庭的でのんびりとした雰囲気づくりに努められています。また、利用者地域とのつながりを大切にされており、地域に親しまれ、信頼されるホームづくりがすすめられています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に、職員全員で理念を唱和し、浸透に努めるとともに、理念が日々のサービス提供に反映できるよう取り組まれています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物などの機会に、あいさつや声かけを積極的に行い、地域の人と顔なじみの関係になり、交流が深められるように努められています。敬老会、クリスマス会等のホーム行事に地域のボランティアグループを招くなど、地域の人との交流の機会づくりに取り組まれています。利用者が地域行事に参加するなど、地域の人と関わる機会を増やし、利用者が地域で暮らし続けるための基盤づくりをすすめることが期待されます。	○	ホームが住宅や学校等から離れた場所に立地しており、困難な面もありますが、公民館を利用して、認知症ケアについての市民向けの講座を開くなど、ホームの機能を地域に還元しながら、地域の理解や協力が得られるような取り組みを始められることを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解したうえで、職員全員で自己評価に取り組まれています。また、外部評価受審後に結果を職員間で共有し、意識統一を図ったうえで、具体的な目標を定めるなど、評価を前向きに捉えサービスの質向上につなげられています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が2か月に1回開催されており、ホームの運営やサービスの状況について報告するとともに、積極的な意見交換が行われています。また、課題等については、さまざまな立場から意見をもらいながら、それらがサービスの改善や向上に活かせるよう取り組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	わからないことや疑問が生じた場合には、市担当者に電話相談されていますが、日常的に行き来する関係にはなっていません。	<input type="radio"/>	今後は、報告書を提出する際に、郵送ではなく持参するなど、直接顔を合わせる機会を増やしたり、運営推進会議に市の参加が得られるよう働きかけを行い、市との関係を深めながら協働してサービスの質向上に取り組まれることを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状態の変化に応じて、電話や手紙を利用した細やかな報告が行われています。また、家族の訪問時には、利用者の暮らしぶりについて報告するとともに、家族がホームでゆっくりできるような雰囲気づくりを行い、利用者のホームでの暮らしぶりや雰囲気を肌で感じてもらえるようにするなど、家族の安心感が得られるよう努められています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時に、家族の意見や思いが汲みとれるような雰囲気づくり、声かけの工夫が行われている他、目安箱を設置し、直接ホームに言いづらい意見や思いの把握に努められています。また、意見をもとにカンファレンスを開催し、サービスの改善に向けて具体的な検討を行うなど、意見を前向きに捉え、サービスの質向上に活かされています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職による利用者への影響を認識されており、異動等が生じた場合には、引継ぎの期間を十分に確保するなど、利用者が不安な気持ちを抱かないよう細心の注意が払われています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の習熟度や希望に応じた研修が受けられるよう、内部研修、外部研修の機会が積極的に設けられています。また、毎日のミーティングの際に、サービスを提供するうえで生じる疑問等について、職員間でアドバイスをしあうなど、働きながらの学びを大切に環境づくりに取り組まれています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、他事業所等との交流、勉強会は行われていませんが、今後は、交流を図りながら、サービスの質向上につなげていきたいとの意向です。	<input type="radio"/>	職員が他のホームを見学する機会を設けるなど、他事業所との交流を通して得た知識やケアの工夫をサービスの質向上につなげられることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	使い慣れたものやなじみの家具等を持ち込み、利用者が環境の変化をできるだけ感じることのないよう配慮されています。また、季節ごとの衣替えは、家族と一緒にするなど、これまでの習慣や家族とのふれあいを大切にすることで、安心してサービスが受けられるよう配慮されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩として尊敬する姿勢を大切にされており、日々の関わりの中で、利用者のこれまで培ってきた経験や技術を学ばれています。また、草取りや掃除等、利用者の「できること」「得意なこと」を発揮する場面づくりを行いながら、利用者を介護される一方の立場におかない、支え合う関係づくりがすすめられています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努められています。また、言葉や表情で表すことが困難な利用者の思いを汲みとるため、カンファレンスを開催し、関係者で本人の視点に立った意見交換を行いながら、その人にとっての最良の支援について検討されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の希望や日々の関わりの中で汲みとった利用者の思いが計画に反映できるよう、カンファレンスにおいて意見交換を行いながら、利用者一人ひとりの思いを反映した介護計画が作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回定期的に見直しが行われている他、利用者の状況やニーズの変化に応じた見直しが行われており、現状に即した計画が作成されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族のニーズや要望に応じた外出・外泊支援のほか、家族が泊まれるような設備を整えるなど、利用者と家族の関係、利用者と地域社会との関わりが途絶えないよう柔軟な支援が行われています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望するかかりつけ医を確認し、適切な医療が継続して受けられるよう支援されています。また、併設病院の医師による週3回の往診のほか、歯科、皮膚科の往診も行われており、利用者の健康を守る体制が整えられています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族が最期まで安心してサービスを利用できるように、できるだけ早期から、家族や医師と話し合う機会を設け、重度化した場合や終末期のあり方についての方針を共有されています。また、利用者の状態に変化が生じた場合には迅速な対応ができるよう、併設病院との連携も十分に確保されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄支援等を行う場合には、利用者の羞恥心に配慮し、浴室や居室にさりげなく誘導するなど、利用者の尊厳やプライバシーを大切にしたい関わりや言葉かけが心がけられています。また、個人情報の取り扱いにも細心の注意が払われています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「遅くまでTVを見る」「寝る前に必ず挨拶する」といった、一人ひとりのこれまでの習慣やその人なりのペースが、暮らしに反映できるよう配慮されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの嗜好の把握に努め、好みや身体状況に応じて、味つけや食事形態の工夫が行われています。また、食事の一連の作業を通して、利用者の得意なことが発揮できるよう場面づくりが行われているほか、利用者が、焦らず自分のペースでゆっくり食べられるような雰囲気づくりが行われており、食事という生活の中の一つの場面でもその人らしさが大切にされています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回とされていますが、利用者の希望や習慣に応じて毎日でも入浴できるよう体制を整えられています。また、入浴の順番や入浴剤を使用するなどの工夫を行いながら、入浴が楽しみごとになるよう取り組まれています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしの中で、利用者の得意なことや個性が発揮できるよう役割づくり、場面づくりが行われています。炊事や洗濯物たたみを手伝う人、新聞記事を隅々まで読んでスタッフに内容を教える人、指を器用に使いマフラーを編む人など、利用者それぞれのやりたいことやできることに合わせた楽しみごとや気晴らしの支援が行われています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の協力を得ながら、墓参り等、利用者の希望に沿った外出が行われています。また、買い物、お花見、アジサイ祭り、紅葉狩りなど、積極的に外出支援されており、利用者が四季折々の自然に触れ、五感を刺激することで、気分転換や生活の意欲へつながるよう取り組まれています。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解されており、鍵をかけないケアに取り組まれています。交通量の多い道路に面しており、玄関を出る際には、開錠が必要な状態になっています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、年2回避難訓練が実施されていますが地域の人々の協力は、現状では得られていません。	○	日常的に、地域の人や消防署等との関係を深め、災害が起こった場合に地域の機関や住民の協力が実際に得られるような体制について、具体的に検討をすすめられることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事・水分摂取量を確認、記録されているほか、利用者の状態に応じて、調理方法や形態を工夫するなど、必要な栄養や水分が提供できるよう取り組まれています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く開放感のある廊下と大きな窓からは、自然の光が十分に降りそそぎ明るい空間となっています。玄関ホールや談話室に季節の花を飾り、室内でも利用者が季節感を感じられるように配慮されています。今後は、玄関前の広い空間にプランターを設置して、利用者が花の咲いた様子や香りなどで、季節感が感じられるようにするなどの工夫をすすめられることを期待します。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には一人ひとりの使い慣れたものが持ち込まれているほか、利用者が手作りのカレンダーや家族との思い出の写真が飾られており、その人らしさを大切に居心地のよい居室づくりがすすめられています。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム大野 1 ユニット

評価年月日 H19年 12月 5日

記入年月日 H19年 12月 5日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 中川 由美子

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	------------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	一人ひとりの生活を大切にし、常に笑顔で家庭的な雰囲気作りをめざすよう、独自の理念を作っている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝の申し送り時に、スタッフ全員で理念を唱和し取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議でしっかり説明し、入居時に家族へも十分説明し理解を得ている。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	秋の祭り等の行事には、立ち寄ってもらったり、近所の人達が散歩していたり、買い物先で出会った時など、積極的に挨拶・会話をしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事等には出来るだけ参加するようにと思っているが、秋のまつりぐらいしか参加していない。	○	自治会の交流は積極的に行っていない。 地域の一員として数多くの行事に参加し、交流を深めて行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	入居者との関わりばかりで地域の高齢者について、話し合いをしていない。	○	地域の高齢者に対して何が役立つかを話し合う場をもうける。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価をした後、再度スタッフ間で共有する点や統一する点が確認され、目標も出来、しっかりと認識し取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、1回/2ヵ月開催し、ホームの運営やサービスの状況についての報告、話し合いを設け、問題点においては、意見を出し合い改善し向上に向けて努めている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	解らない事などがあった場合、市に電話を掛けて聞く事はあるが、行き来する機会を設けていない。	○	行き来する機会を設け質の向上に努たい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	スタッフ全員には学びの機会がない。	○	スタッフ全員に学びの機会を増やしていき、必要な方に支援出来るようにしていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ホームでは虐待の勉強会は行っておらず、併設の病院で学ぶ機会もあるが、全員は学んでいない。	○	全スタッフが、学びの機会を設け、理解していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居や退去の際は、管理者及びホーム長又事務の方から、十分な説明を行い、理解し納得を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	コミュニケーションの中で不満や苦情を聞き、信頼関係を築く努力をしている。 又目安箱を設置し、意見をいただけるようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族の面会時に報告したり、変化があった時には、随時電話や手紙でお知らせしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会に来られた際に不満がないか聞き、カンファレンスにて改善策を検討している。又、目安箱を設置し、意見を頂くようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングの中で、運営に関する事の見解を聞いていない。	○	今後、スタッフの意見も取り入れ、反映出来るようにしていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	要望に対応できるように、必要な職員数を確保し、勤務調整がなされている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者のケアに影響しないように、異動や離職の際には、引継ぎを十分行い利用者の不安を最小限に抑えている。		
5 人材の育成と支				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修や外部研修には、機会がある事に参加している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他のグループホームや施設との交流はあまりなく、勉強会も行っていない。	○	今後、他施設との交流を計り、スタッフの質の向上に努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	スタッフとの交流の場は不定期ではあるが設けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	一人ひとりの実績や勤務状況などは把握できている。各自に向上心を持って行く様、働き掛けに努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	本人や家族の話を聞き、不安を取り除けるよう情報収集に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前から、本人や家族の不安や困っている事を傾聴し、改善策を話し合っている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族等の相談時には、早期対応に努め、他のサービス機関へも連絡を取り支援している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家庭でいつも使い慣れている物や本人が安心出来るスペース作りに心掛け、不安なく日常生活が送れる様に工夫をしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、コミュニケーションを通じて経験話を聞いて学ぶ事も多い。 生活していく中で、その人の思いや考えを聞き適切なサポートが出来る様努めている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族と共に入居者を、温かく支え、お互いの意向や思いを大切にしている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の間に入り、家族関係が良くなるように、架け橋の役目となり、支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	うまく支援出来ていない。	○	昔懐かしい場所へ出掛けたり、馴染みの人との交流の場を設け関係が途切れないよう心掛けたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	スタッフが入居者間のサポートする事で、孤立しないように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了後は、継続的な関係を持っていない。	○	退去された方へ近況報告の連絡を、手紙や電話で定期的に行い、関係を継続できるように努めたい。

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コミュニケーションやレクリエーション時に思いや意向を把握している。困難な場合、カンファレンスで支援策を検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族・本人の会話の中から聞き取りしたことを生活歴に記入し、職員全員で把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一日の生活は行動日誌に記入し、全職員が把握できる様になっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族の要望・本人の希望を聞いたり、日頃の会話の中から感じる思いを元に、カンファレンスを開き計画を作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1度見直しを行っているが、変化があった場合は、その都度計画を立て直している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録はできており、変化のある時は職員間の申し送りを強化している。		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の要望は出来るだけ聞き入れ、外出・外泊等できるよう支援している。		
----	--	---------------------------------------	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの受入れを行なっている。		
----	---	--------------------	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他のケアマネージャーや事業所と相談し、必要なサービスの支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	本人の意向や必要性に応じて、地域包括支援センターに相談し協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	併設病院で受け入れてもらっている。 他病院を希望されれば職員または家族の付き添いにて受診している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	併設病院へ相談できるようになっており、いつでも往診・受診できるような体制を整えている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員と相談しながら、支援を行っている。 健康状態についてもきちんと把握されている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	家族が面会に行かれた際や、病院関係者（医師・看護師）に入院中の状態や経過を聞くなど情報交換をし、退院に向けての話し合いは常に出来ている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	出来るだけ早期に家族・医師と話し合いをし、方針を共有している。		
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人・家族の要望を聞き、看護面と介護面で出来る事を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	他施設に移る際は、家族・次の施設の職員と話し合い、情報交換を密にしている。 必要に応じて、アセスメント等の提供も行っている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりに合った、状態・状況を見極め、傷つけないように、言葉掛けや対応に気配りしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	静かな場所で、ゆっくりと入居者の思いや希望を聞き、最終的に自己決定できるような環境を整え、支援をしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の様子を見ながら、一人ひとりのペースに合わせて希望を聞き支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	家族が理・美容院に連れて、行かれる方もいるが、大半はボランティアの支援を利用している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの嗜好を把握している。入居者の得意分野も活かし、準備・盛り付け・後片付けを一緒にしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	時間を決めて出来る範囲で、楽しめるように工夫をしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	早めの声かけを行い、失敗を防ぐようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望された方には、毎日入浴をしてもらっている。入浴剤等の工夫をしたりして、楽しんで入浴してもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの健康状態も把握した上で、時には昼寝をして頂いたり安心して休んで頂ける様支援している。		

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意分野を見出し、それが活かせる役割を持ってもらい、日々を楽しく過ごしていけるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自動販売機・公衆電話を使用するくらいのお金は金銭管理できているが、家族との相談で持っていない方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	季節の花を見に行ったり、ドライブや買い物等、入居者の希望や健康状態、天候に配慮しながら、外出の機会を設けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族との特別な行事（墓参り・法事など）は家族の協力のもと、訪問している。 その時の身支度などの支援をしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の希望があれば電話口までお連れし、手紙を書かれたらすぐに、ポストへ投函している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に来訪できる雰囲気作りに努めています。来訪の際は、お茶などを出してゆっくり話しをしてもらえるように工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていません。 併設の病院で研修にも参加している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	基本的には鍵は掛けていません。 入居者により鍵を掛ける事で逆に安心する方もおり、やむを得ない時もあるが出来るだけ掛けないように取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者の一人ひとりのプライバシーに配慮しながら、安全に生活をしてもらえる様に、常に声掛けて把握できている。昼間の様子も、夜勤者に、細かく申し送り、ノートにも記録し全スタッフが分かるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に合わせ、危険物は目の付かない場所に保管している。 必要時には、声掛け合っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ひやりはつとや事故報告書に記入する事で、改善策をとっている。併設の機関で、研修等で知識を学び、事故防止に取り組んでいる。研修に参加できなかった人には、記録を読んでもらって知識を学んでいる。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	研修等に参加はしているが、全スタッフではない。 定期的な訓練も行っていないため、全スタッフが、緊急時の応急手当ができない。	○	全スタッフが、応急手当等の方法や訓練を、定期的に学んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時の訓練は年 2 回しか行っていない。又地域との協力の働きかけをしていない。	○	日頃から地域の人々に働きかけ、一緒に避難訓練が出来る機会を設けたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	その人らしい暮らしを大切にしている。面会時に、日頃の身体状況を報告し、起こりうるリスクを本人、家族と共に話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	併設の病院との連携で、3回/週の往診と毎朝のバイタルチェックで、体調の変化を発見し、異常の際には、その都度、早期対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者一人ひとりの服薬の内容は、カンファレンスやミーティングで十分理解し、情報を共有している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	食品や体操で、出来る限り予防している。又一人ひとりに合った運動を考え、工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	声かけの必要な人には毎食後に、口腔ケアの声かけを行っている。出来ない人には、介助をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態を見て食事量や水分量を把握し毎食後に摂取量の記録をしている。 又一人ひとりの状態を見て、調理方法も工夫し支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	日頃より手洗い・うがい・手すり等の消毒をまめに行っている。 感染症予防についても、併設の病院で研修も参加している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理の前後は、十分に手洗いや消毒をしている。 調理用具等の衛生マニュアルも作っており、調理後は、消毒・清潔に努めている。食材の管理もしっかり行っている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	気軽に立ち寄ってもらえる様に、玄関周りに、季節の花々の植木鉢や観葉植物を置いて、工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関ホールや談話室、廊下等に季節の花を飾って、明るく居心地のよい空間作りの工夫をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う人と会話やテレビを見たり、一人でも楽しめる居心地のよい居場所作りの工夫をしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使い慣れた物を持って来たり、壁には、家族との思いでの写真や作った工作を飾り居心地のよい居室になっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	一人ひとりの部屋の温度に気を配り、匂いや湿度にも配慮し、適度に換気している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安心して生活が送れる様に、廊下に手すりをつけたりホール内は、障害になるような物は出来るだけ少なくし、安全に移動出来るようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	共同で使うトイレやお風呂に目印をつけたり、各部屋の出入り口に花の絵と名前の表札を掲げ混乱しない工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダで日向ぼっこを楽しんだり、庭にテーブルとイスを置いて、入居者同志でお茶タイムも楽しんでいる。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム大野 2 ユニット

評価年月日 H19年 12月 5日

記入年月日 H19年 12月 5日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 ホーム長 氏名 中村 清美

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	その人らしい生活を大切にしつつ、常に笑顔で温かな家庭的な雰囲気作りをめざすよう、独自の理念を作っている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日の朝礼時、スタッフ全員で理念を唱和し日々取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	玄関の出入り口や廊下に理念を掲示して、家族にも説明している。運営推進会議でしっかり説明している。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	季節の行事等には、立ち寄ってもらったり、近所の人達が歩いていたり、散歩や買い物先で挨拶や会話をしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	行事等には出来るだけ参加するようには思っているが、秋のまつりぐらいしか参加していない。	○	自治会の交流は積極的に行っていない。 もう少し地域の一員として交流に努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ホームの入居者との関わりばかりで地域の高齢者について、話し合いをしていない。	○	地域の高齢者に対して何が役立つかを話し合う場をもうける。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価をした後、外部評価での、改善や反省する点が見え、目標も出来、しっかりと認識している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	1回/2ヵ月開催し、サービスの状況についての報告や話し合いをしており、挙げられた意見を改善し向上に向けて努めている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	ホームを運営する中で、解らない事などがあつた場合、市に電話を掛けて聞く事があるが、行き来する機会は設けていない。	○	行き来する機会を設け向上に努める。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	一部の人は研修等で学んでいるが、スタッフ全員には学びの機会がない。	○	スタッフ全員に学びの機会を増やしていき、必要な方に支援出来るようにしていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待については、あまり話し合っていない。併設の病院で学ぶ機会もあるが、全員は学んでいない。	○	全スタッフが、学びの機会を設け、理解していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居者及び家族には、管理者及びホーム長又事務の方から、十分な説明を行い、理解し納得を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	日々の会話の中で、不満や苦情を聞き、信頼関係を築く努力をしている。又目安箱を設置し苦情や意見をいただけるようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時に報告したり、変化があった時には、随時電話や手紙を書いて、知らせしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	目安箱を設置し意見を聞くようにしている。また、面会に来られた際にも不満がないか聞くようにし、カンファレンスにて改善策を検討している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	話し合う機会はあるが、まだ反映されていない。	○	今後、スタッフの意見も取り入れ、反映出来るようにしていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	行事や状態変化などある時は、必要な職員数を確保出来る様、勤務調整がなされている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動による場合は、引継ぎを十分行い利用者の不安を最小限に抑えている。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修へは積極的に参加している。 外部研修は予定が合えば、参加している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	近隣の施設との交流はあまりなく、勉強会も行ってない。	○	今後、他施設との交流を計り、スタッフの質の向上に努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	相談できる雰囲気作りに努めている。 また、スタッフとの交流の場は不定期ではあるが設けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	実績や勤務状況などを把握している。各自に向上心を持って行く様に、働き掛けに努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	家族の話しを聞き、不安を取り除けるよう情報収集に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面会時には、必ず様子を伝えている。 また、家族の不安や意見があればその都度話し合いを持っている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時には、早期対応に努め、他のサービス機関へも、連絡を取り、支援している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居者が不安なく、生活出来る様、身近な物やいつも使い慣れている物にするなど、本人が安心出来るスペース作りを心掛けている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフの知らない事を教えて頂き、人生の先輩として話の中から学ぶ事も多い。 生活していく中で、その人の思いや考えを聞き適切なサポートが出来る様に努めている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の意向・思いを大切に、共に入居者を支え合えるようにしている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	両者の架け橋の役目となるような助言を心掛けています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	情報が乏しく、支援出来ていない。	○	昔懐かしい場所へ出掛けたり、馴染みの人との交流の場を設けたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	友人が出来たと喜んで、会話を楽しんでいる。 又、スタッフがサポートする事で、孤立しないように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院された方のお見舞いには、行っているが、退去後は、継続的な関係を持っていない。	○	退去された方へ、近況報告の連絡を、手紙や電話で、関係を継続するように努めたい。

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中からその人の思いを引出し、カンファレンス等を開き、話し合いの中で支援策を検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族・ご本人の会話の中から聞き取りしたことを生活歴に記入し、職員全員で把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一日の生活は、行動日誌に記入し、把握できる様になっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族の要望、ご本人の希望を聞いたり、日頃の会話の中から感じる思いを元に、カンファレンスを開き計画を作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1度見直しを行っているが、変化があった場合は、その都度計画を立て直している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録はできており、変化のある時は職員間の申し送りを強化している。		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の要望は出来るだけ聞き入れ、外出・外泊等できるよう支援している。		
----	--	---------------------------------------	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの受入れを行なっている。		
----	---	--------------------	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他のケアマネージャーや事業所と相談し、必要なサービスの支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	本人の意向や必要性に応じて、地域包括支援センターに相談し協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	併設病院で受け入れてもらっている。 他病院を希望されれば職員または家族の付き添いにて受診している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	併設病院へ相談できるようになっていて、いつでも往診・受診できるような体制を整えている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員と相談しながら、支援を行っている。 健康状態についてもきちんと把握されている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	家族が面会に行かれた際や、病院関係者（医師・看護師）に入院中の状態や経過を聞くなど情報交換をし、退院に向けての話し合いは常に出来ている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	出来るだけ早期に家族・医師と話し合いをし、方針を共有している。		
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人・家族の要望に応じ、看護面と介護面で出来る事を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	他施設に移る際は、次の施設の職員・家族と話し合い、情報交換を密にしている。 必要に応じて、アセスメント等の提供も行っている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりに合った、状態・状況を見極め、プライバシーに配慮しながら、言葉掛けや対応を行っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	静かな場所で、ゆっくりと入居者の思いや希望を聞き、最終的に、自己決定できるような、支援をしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の様子を見ながら、一人ひとりのペースに合わせ希望を聞き支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	家族が理・美容院に連れて、行かれる方もいるが、大半はボランティアの支援を利用している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの嗜好を把握している。入居者の得意分野も活かし、準備・盛り付け・後片付けを一緒にしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	時間を決めて出来る範囲で、楽しめるように工夫をしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	早めの声かけを行い、失敗を防ぐようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望された方には、毎日入浴を、してもらっている。入浴剤等の工夫をしたりして、楽しんで入浴してもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの健康状態も把握した上で、時には昼寝をして頂いたり安心して休んで頂ける様支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意分野を見出し、それが活かせる役割を持ってもらい、日々を楽しく過ごしていけるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自動販売機・公衆電話を使用するくらいのお金は金銭管理できているが、家族との相談で持っていない方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	季節の花を見に行ったり、ドライブや買い物等に、入居者の希望や健康状態、天候に配慮しながら、外出の機会を作っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族との特別な行事（墓参り・法事など）は家族の協力の下、訪問している。 その時の身支度などの支援をしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の希望があれば電話口までお連れしたり、手紙を書かれたらすぐに、ポストへ投函している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に来訪できる雰囲気作りに努めています。来訪の際は、お茶などを出してゆっくり話しをしてもらえるように工夫している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束を、しないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	基本的には鍵は掛けていません。 入居者により鍵を掛ける事で逆に安心する方もおり、やむを得ない時もあるが出来るだけ掛けないように取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者の一人ひとりのプライバシーに配慮しながら、安全に生活をしてもらう様に、常に声掛けて把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に合わせ、危険物は、目の付かない場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ひやりはつとや事故報告書に記入する事で、改善策をとっている。又、併設の機関で、研修等で知識を学び、事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	研修等に参加しているが、全てのスタッフではない。定期的な訓練も行っていない。	○	全スタッフが、応急手当等の方法や訓練を、定期的に行ってほしい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時のマニュアルもあり、自然災害には、避難場所も解っているが、訓練は年 2 回しか行っていない。又地域との協力の働きかけをしていない。	○	日頃から地域の人々に働きかけ、入居者と一緒に避難訓練をしっかり、行ってきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	面会時に、日頃の身体状況を報告し、一人ひとりに合った生活を大切にしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	3回/週の往診と毎朝のバイタルチェックで、体調の変化を発見し、異常の際には、その都度、早期対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者一人ひとりの服薬の内容は、カンファレンスやミーティングで理解し情報を共有している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	食品や声かけの体操で、出来る限り予防している。又一人ひとりに合った運動で工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後に、口腔ケアの声かけを行っている。出来ない人には、介助もしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量を毎食後に記録をし一人ひとりの総摂取量を把握している。又一人ひとりの状態を見て、調理方法も工夫し支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	併設の病院の、研修で勉強をしている。手洗い・うがい・消毒等のマニュアルを作り、日頃から、まめに予防を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具等の衛生マニュアルも作っており、調理後は、消毒、清潔に、努め、食材の管理もしっかり行っている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに、季節の花々の植木鉢を置いて、気軽に立ち寄ってもらえるように、工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	談話室や廊下等に季節の花を飾って、居心地のよい空間作りの工夫をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	談話室には、ソファを置いて、気の合う人との会話や、一人でも楽しめる居心地のよい場所の工夫をしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していた家具や日用品等、使い慣れた馴染みの物を持って来たり、壁には、家族との写真や作った工作を飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	匂いや室温・湿度に配慮し、換気をしたり、各部屋の温度調整もしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下に手すりをつけている。ホール内は、障害になるような物は、出来るだけ少なくし安全に移動出来るようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの部屋に花の絵と名前の表札を掲げ、トイレやお風呂も目印をつけて、混乱しない工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	1階の庭に出て花壇の土いじりや、庭にテーブルとイスを置いており、お茶タイムも楽しんでいる。		